

令和2年度 芹が谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性	
<p>少子高齢化が急激に進んでおり、山坂の多い事に起因した買い物や通院時の外出困難者が増加している。また、緊急事態宣言に伴い、外出の機会が減少したことで、フレイルや認知症が進行しても把握できない現状である。新しい生活様式に配慮したコミュニティの形成が求められる。専門職間の関係性の構築と自治会町内会を中心とした隣近所の関係性を見直し、小さなコミュニティでの支え合いが重要である。</p> <p>また、これまで以上に、商店や企業、福祉施設等と連携し、ニーズ（外出支援、近隣コミュニティの醸成等）の解決に向けた取り組み・サービスの検討、若い世代も含んだ新たな担い手の確保が必要である。</p>	
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組	
新規	継続
—具体的な取組内容—	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 自主事業参加者やケアプラザ利用者に生活状況アンケートを実施し、ニーズ把握を行う。5職種で共有し、今後の事業や支援を検討する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 見守り協力事業者を中心に、商店や事業所等に、地域情報のヒアリングを行う。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症があっても、体操や茶話会等に継続して参加できるように、認知症の対応方法等の情報提供を通じて、受け入れ体制を整える。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 区計画プロジェクトに毎回参加し、3期計画の推進、4期計画の策定に共同で取り組む。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 地域ケア会議を通じ、ケアマネジャーの支援強化に向け、地域支援者や医療従事者等多分野とのネットワークを構築する。

◆ 事業報告・事業実績評価

<input type="checkbox"/> 振り返り
<p>・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、新しい生活様式へ移行する中、今までとは異なる課題に対して取り組んだ1年となった。食事会や体操教室等、地域の取り組みが中止となり、直接ヒアリングや情報提供が出来ない状況が続いた。そこで広報誌『芹が谷通信』を回覧や地域の掲示板の他、ホームページ、Twitterを活用し、体操講師や協力医のコラム、保健師による感染症予防啓発等掲載し、継続して情報発信する事が出来た。</p> <p>・コロナ禍における生活状況及び日頃のインターネット活用状況と、広報誌の認知度把握を目的に、貸館利用者を対象としたアンケート調査を4月と10月に実施。想定以上に身体機能の低下が顕著になった一方で、日頃から広報誌をご覧いただいている方は、紹介した体操を行い、体力維持を努めており、広報誌による情報発信の効果を感じることが出来た。また、もう一つの成果として、回答者の殆どが概ね65歳以上の方にもかかわらず、インターネットを利用している方が多数いることがわかった。この結果を基に、新たにWeb形式での講座を行う根拠を得られた。そこで、毎年多人数の参加が見込める『健康フェスタ』をWeb開催講座第1弾として準備を進めている。</p> <p>・6月から消毒・換気・マスク着用の徹底と、サーモグラフィによる検温を実施し、徐々に貸館利用再開。8月には人数調整を行い、地域ケア会議を開催することが出来た。話し合いの中で、改めて本人の望む終末期の過ごし方について共有する大切さや、それを広める事の必要性、難しさについて、参加者から声が挙がったことは、大きな意味を持つケア会議となった。これまで以上に、エンディングノートやACPの普及啓発を進める事を来年度の取り組みの一つとして確認する場となった。</p> <p>・認知症があっても体操教室や茶話会等へ参加出来るよう、芹が谷虹の会の運営メンバーと対応方法等について話し合いを行った。コロナ禍に伴う外出機会低下についても話題となり、まずは、少しでも早く受け入れていく事で一致。現在、包括支援センターの見守りケースを紹介し、ご本人の調子を伺いながら3Aを中心としたプログラムに参加いただいている。引き続き、5職種連携して団体と関わりを持ちながら、他の認知症のある方が参加出来るよう計画的に支援を行う。</p>

□ 区からのコメント

個別支援に関しては、各職種、各機関の役割や強みを理解し、適切に連携し対応できています。民生委員の定例会で高齢者虐待の防止リーフレットと事例を紹介しながら見識を深めてもらいました。民生委員より地域住民にも見てもらいたいとの意見があり、その後自治会の回覧板で回覧する流れになったのは、日頃の業務の積み重ねによるものと思われま

す。地域の活動支援については、長年の取組みにより地域住民と協働して取り組んでいます。今後は新しいマンションや住宅地など地域とのつながりをこれから作り上げていくエリア、元々住民同士のつながりが薄いエリアでどのような潜在的ニーズがあるのか、分析し働きかけていく必要があると考えます。個別相談の分析の他、区やケアプラザなどの支援者側からアプローチできる方法を一緒に考えていきたいです。

令和2年度はコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施などに様々な制限が求められました。そうした中でも、工夫を凝らしながら、関係者との協働により地区別計画の策定を達成するなどの成果も上がっています。今後、ますますのニーズ増が見込まれるICTの利活用については区役所としても各種取組の提案や情報提供などに努めていきます。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。